

**(別冊 1)**

**公民連携実証プロジェクト推進事業**

**<行政課題シート>**

行政課題シート

所属	健康推進課
----	-------

タイトル	生活習慣改善による健康寿命の延伸
実証プロジェクトの内容など	<p><b>(現状・課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本市は令和 6 年 3 月に、「堺市健康増進計画」、「堺市食育推進計画」、「堺市歯科口腔保健推進計画」の 3 つの計画を「さかい健康プラン」として一体的に策定した。</li> <li>○さかい健康プランでは、「すべての市民がいくつになっても、心身ともに健康で充実した人生を送ることができる社会の実現」をビジョンに掲げ、市民が健康増進に向けた生活習慣を継続できるように取り組んでいる。</li> <li>○令和 7 年に発表された令和 4 年の本市の健康寿命は、男性が 72.50 年、女性が 73.66 年であり、令和元年と比較すると、男性で 0.32 年、女性で 0.80 年短縮した。</li> <li>○本市の循環器疾患の死亡率は全国及び大阪府に比して増加率が高く、健康寿命延伸に向けて同疾患対策を推進する必要がある。</li> <li>○青年期（16～22 歳）や成人期（20～39 歳）といった早い段階から減塩等の食生活習慣を形成することにより、将来の循環器疾患予防ひいては健康寿命の延伸につながることを期待できる。</li> <li>○循環器疾患予防として、減塩に関する啓発を市内各所にて実施しているが、「うす味を意識している人」の割合は少ない。</li> </ul> <p>&lt;参考資料：さかい健康プラン&gt;</p> <p><a href="https://www.city.sakai.lg.jp/kenko/kenko/kenkozukuri/sakai-kenko-plan/index.html">https://www.city.sakai.lg.jp/kenko/kenko/kenkozukuri/sakai-kenko-plan/index.html</a></p> <p><b>(求める提案の内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○減塩を含む食生活の改善を中心とした生活習慣の見直しを促す情報発信手法や、SNS・AI 等を活用した若者の行動変容につながる取組</li> <li>○行政データ等を活用した、循環器疾患に関わる生活習慣リスクの把握・可視化</li> </ul> <p><b>(プロジェクトのイメージ例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○減塩を含む食生活の改善を中心とした生活習慣の見直しを促すアプリ等の開発とその効果分析</li> <li>○行政データや独自に取得したデータを用いた、市の生活習慣改善施策の効果測定・分析</li> </ul>

行政課題シート

所属	南区役所 企画総務課
----	------------

タイトル	南区ブランド戦略の推進
実証プロジェクトの内容など	<p><b>(現状・課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○南区では、平成4年をピークに人口が減少し続けている。とりわけ高齢者の増加と現役世代（若年層）の減少が顕著であり、地域の活力維持や持続可能性の確保が喫緊の課題である。若年層が「住んでみたい」「住み続けたい」と思えるよう、南区の魅力を「市民の生活の質の向上」や「新たな体験価値の創出」に繋げるために、居住地としての魅力を戦略的に情報発信する必要がある。</li> <li>○こうした背景を踏まえ、南区では令和5年度に「南区ブランド戦略」を策定し、南区ブランド「みどりとともにかなえる豊かなくらし（M&amp;GREENs）」を構築し、ロゴマークの制作や区ホームページ、SNS（X、Instagram、YouTube等）を活用した情報発信に取り組んできた。</li> <li>○しかしながら、区内イベント等でのアンケート結果（南区ブランドロゴマークの認知度：令和6年度21%、令和7年度21%）が示すとおり、南区ブランド「M&amp;GREENs」の認知度は横ばいで推移しており、十分な浸透に至っていないのが現状である。</li> <li>○今後、南区ブランド「M&amp;GREENs」の認知拡大や現役世代（若年層）の具体的な行動変容に繋げるためには、行政主導による発信手法だけでなく、より効果的かつ持続的な施策展開が不可欠である。行政だけでなく、民間事業者の高度な専門知見やノウハウを積極的に取り入れ、公民連携による取組を一層推進することが必要である。</li> <li>○また、住民サービスの質的向上および南区のイメージ向上を図るために、区の価値や魅力を的確に発信する戦略的なブランディングの推進が必要である。併せて、地域資源を有効に活用し、一貫性のある情報発信と認知向上に取り組むことで、区への信頼性および愛着の醸成を図ることが求められている。</li> </ul> <p>&lt;参考資料：南区ブランド「M&amp;GREENs」&gt;  <a href="https://www.city.sakai.lg.jp/minami/shokaimiryoku/m-greens/index.html">https://www.city.sakai.lg.jp/minami/shokaimiryoku/m-greens/index.html</a></p> <p><b>(求める提案の内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○南区ブランド戦略の推進に向けたモデル構築（シビックプライド向上、関係人口の創出・強化、区イメージの明確化、「堺スマートシティ戦略」に基づくICTを活用した取組等の戦略的な情報発信など）</li> <li>○区内事業者や地域団体、民間事業者等との連携によるブランド価値を高める取組の実証（情報発信の強化、イベント・キャンペーン、分析・調査・検証など）</li> </ul> <p><b>(プロジェクトのイメージ例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○南区ブランド「M&amp;GREENs」の推進（区の魅力やブランド認知度の向上）に繋がる取組の提案・実施・効果検証</li> </ul>

行政課題シート

所属	文化課
----	-----

タイトル	「茶の湯が息づく堺」の実現に向けた取組の強化
実証プロジェクトの内容など	<p><b>(現状・課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 30 年 10 月「堺茶の湯まちづくり条例」施行</li> <li>○条例施行後、各区で「堺おもてなし茶会」を開催</li> <li>○令和 7 年 2 月「茶の湯が息づく堺」ロゴマークを作成</li> <li>○毎年度、指定管理者による茶の湯関連事業を実施しているほか、大阪・関西万博でもさまざまな催事を実施</li> <li>○しかしながら、利用者層に偏りがあり、全市民に浸透しているとは言い難い状況</li> </ul> <p><b>(求める提案の内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市内の茶の湯関連事業者（茶商、和菓子店等）をはじめ、民間との連携によるブランディングの促進</li> <li>○市内外への「茶の湯が息づく堺」の定着につながるコンテンツ造成</li> </ul> <p><b>(プロジェクトのイメージ例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文化芸術分野だけでなく、他分野との連携により幅広い年齢層に訴求する茶の湯文化の効果的な発信や取組等</li> <li>○市域において茶の湯体験が可能な施設やイベントに関する情報発信、茶の湯文化の定着を図るにあたって必要な調査・分析及びそれらに資するツールの開発など</li> <li>○公民連携による商品開発や体験者向けサービス、イベントなど</li> </ul>

行政課題シート

所属	こども企画課
----	--------

タイトル	こども・若者の権利の理解と意見聴取による施策反映の促進
実証プロジェクトの内容など	<p><b>(現状・課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまで大人が中心であった社会を「こどもまんなか社会」へ変えるため、こども・若者を支援の対象としてとらえるだけでなく、権利の主体として認識し、ともに社会をつくるパートナーとしてその意見を聴き、施策に反映させることが重要。</li> <li>○本市では堺市こども計画に基づき、こども・若者の権利の理解促進及び意見聴取と施策への反映に向けた取組を進めており、これまで小学生向けの啓発イベント等を実施してきた。</li> <li>○一方で、特定の年齢層や参加者を対象とした啓発を積み重ねる方法では、市民全体への認知・理解の広がりには相当の時間を要し、短期間での浸透には限界がある。</li> <li>○また、行政による広報・啓発（市ホームページ、広報紙、啓発イベント等）は、情報に自らアクセスする層に届きやすい一方で、日常生活の中で意識せずに情報に触れる機会を十分に創出できていないという課題がある。</li> <li>○特に、こどもを持たない世代や高齢者、働く世代などの層に対しては、行政単独での周知・啓発には限界がある。</li> <li>○こうした状況を踏まえ、こどもや保護者に限らず、地域社会全体が「こどもまんなか」や「こどもの権利」を共通認識として持つためには、幅広い世代に自然に届く啓発手法を実証する必要がある。</li> </ul> <p>&lt;参考資料：堺市こども計画&gt;</p> <p><a href="https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/gyosei/shishin/kodomo/sakai-kodomokeikaku.html">https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/gyosei/shishin/kodomo/sakai-kodomokeikaku.html</a></p>
	<p><b>(求める提案の内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幅広い世代に対して、日常生活の中で「こどもまんなか」「こどもの権利」の考え方が自然に浸透する過程を創出し、認知、理解、行動変容への影響を検証できる提案を求める。</li> </ul> <p><b>(プロジェクトのイメージ例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活における反復接触型プロジェクト             <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の目に触れる機会が多い商品、サービス、店舗、デジタル媒体等を活用し、「こどもまんなか」「こどもの権利（4つの原則）」の考え方に日常生活の中で繰り返し触れる環境を創出</li> <li>・接触回数や接触層を想定した設計とし、事前・事後の簡易調査等により認知度、理解の深まり、考え方や行動変容への影響を検証する。</li> </ul> </li> </ul>

## 行政課題シート

所属

消防局予防部予防査察課

タイトル	AI を活用した火災調査業務の効率化について
実証プロジェクトの内容など	<p><b>(現状・課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当局では、火災発生時に原因調査を実施しており、当該結果を詳細に記録する文書として、火災 1 件ごとに火災調査書を作成している。</li> <li>○令和 7 年中における当局管内の火災件数は 213 件である。</li> <li>○火災規模により差異はあるものの、複数棟に延焼するなどの大規模火災では、1 件あたり約 15,000～20,000 字に及ぶ火災調査書を作成する必要があり、書類作成に多大な時間と労力を要している。</li> <li>○近年、電気機器等の電気関係を原因とする火災が増加傾向にあり、専門的かつ高度な知識を要する事案が増えている。</li> <li>○こうした状況の中、火災調査書における文章作成や過去事例の参照が職員の大きな負担となっており、火災調査業務全般の効率化が喫緊の課題となっている。</li> </ul>
	<p><b>(求める提案の内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○火災調査業務全般を対象として、最終的な判断は職員が行うことを前提とした補助的な AI 活用により、業務効率の向上を図る手法について提案を求める。</li> <li>○特に、以下の観点を含めた提案を想定している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災現場写真の解析による焼損状況及び延焼方向の把握</li> <li>・上記焼損状況等を踏まえた文章案の生成</li> <li>・火災調査記録の整理及び管理の効率化</li> <li>・過去の火災事例や参考文献を活用した火災原因判定の補助</li> <li>・将来的な火災調査データの蓄積及び活用を見据えた持続可能な仕組みの構築</li> </ul> </li> </ul> <p><b>(プロジェクトのイメージ例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○火災現場写真や調査メモ等を入力することで、焼損状況や延焼方向に関する文章案を生成し、火災調査書作成を補助する仕組み。</li> <li>○過去の火災調査書や事例データベースから類似事例を検索し、考慮すべき出火原因や確認項目を提示することで、火災調査業務を支援する仕組み。</li> </ul>

行政課題シート

所属	都心未来創造課
----	---------

タイトル	堺旧港の活性化
実証プロジェクトの内容など	<p><b>(現状・課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本市は令和 5 年 5 月に「堺都心未来創造ビジョン」を策定し、堺駅・堺旧港周辺の将来像及び取組の方向性を定めている。</li> <li>○堺旧港は、堺都心部の玄関口である南海本線堺駅から徒歩圏内に位置し、海を囲むように整備された親水護岸による美しい景観を有する貴重なウォーターフロントである。</li> <li>○堺旧港周辺では、令和 7 年 3 月に「ポルトマーレ」が開業し、北側エリアでは令和 9 年春頃開業に向け、民間事業者と連携した交流空間の整備を進めており、宿泊・飲食などの都市機能が集積し、新たな人の流れの創出を図っている。</li> <li>○一方で、堺旧港の魅力向上及び来訪促進に向け、次の課題への対応が必要である。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①堺旧港での滞在環境向上                 <p>堺旧港の海辺の景観を感じることはできるものの、来訪や滞在を促す魅力に乏しく、特に夜間においては海辺を照らす照明設備等が少ないため、海辺空間である堺旧港の魅力を十分に感じにくい空間となっており滞在環境の向上を図る必要がある。</p> </li> <li>②南海堺駅からのアクセス改善                 <p>堺駅から堺旧港までは徒歩圏（約 500m）に位置しているものの、経路が分かりにくいことに加え、薄暗さ等による夜間の不安がある。このため、案内誘導の強化や歩行環境（照度、見通し、安心感等）の改善を通じて、駅から堺旧港へのアクセシ性及び回遊性の向上を図る必要がある。</p> </li> </ul> </li> <li>○本市としても、上記の課題解決に資する施策を実施しているが、専門的知見を取り入れたさらなる公民連携の取組が必要である。</li> </ul> <p>&lt;参考資料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○堺都心未来創造ビジョン  <a href="https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/smi_project/kyougikai/R5k1.files/4-2sakaitoshinmiraisouzouvision.pdf">https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/smi_project/kyougikai/R5k1.files/4-2sakaitoshinmiraisouzouvision.pdf</a> </li> <li>○令和 8 年 3 月 24 日提供 アーバンリゾートタウン「ポルトマーレ」がグランドオープンしますー堺旧港エリアの魅力あるウォーターフロントの形成ー  <a href="https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/koho/hodo/hodoteikyoshiryo/kakohodo/r7/r703/070324_03.files/0324_03.pdf">https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/koho/hodo/hodoteikyoshiryo/kakohodo/r7/r703/070324_03.files/0324_03.pdf</a> </li> <li>○令和 8 年 4 月 27 日提供 堺旧港交流空間創出事業の事業内容を決定しました  <a href="https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/koho/hodo/hodoteikyoshiryo/kakohodo/r8/r804/080427_01.files/0427_01.pdf">https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/koho/hodo/hodoteikyoshiryo/kakohodo/r8/r804/080427_01.files/0427_01.pdf</a> </li> </ul>

**(求める提案の内容)**

- 上記課題の改善と併せて、堺旧港の認知度向上（発信）、誘客、回遊促進につながる提案を求める。

**(プロジェクトのイメージ例)**

- 南海堺駅からのアクセス改善施策
- 堺旧港エリアでのライティング事業
- 夜間帯での交流空間の創出